

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体						
子育て世代等外国人支援事業		南保健センター						
事業目的	事業内容	活動指標	R3	R4	R5			
外国人家庭への支援には「言葉の壁」が常につきまとうことが大きな課題である。特に保健師など専門職が支援の中で扱う言葉は特殊であり、会話の内容も込み入ったセンシティブな内容が多いことから、多言語に対応できる対人通訳ツールを導入することで、情報が届きにくい子育て世代の外国人に対し、通訳を介してコミュニケーションを円滑にし、情報の提供や支援の質を高める。	多国籍外国人への適切な子育て支援を行うため、タブレットによるテレビ電話などを用いた多言語に対応できる対人通訳ツールを導入する。 外国人家庭への適切な支援を行うため、子育てや健康づくりに関する資料などをベトナム語・中国語・英語などに翻訳する。	利用者の声、相談件数、相談時間の増加など	外国人コミュニティの繋がりや生活状況を保健師に教えてくれた。(相談以外の話が広がりやすくなり、外国人保護者から得られる情報が他の支援に役立つことがあった) 相談件数・時間:54件・599分	乳幼児健診時に心配事を相談することで市医療機関につなげることができたなど。 相談件数・時間:21件・208分	相談者と支援者の双方が心配事や支援内容などの情報を正確に伝えることができ、相談者からの質問も増えた。 相談件数・時間:51件・530分			
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性		
◎	テレビ電話通訳により、双方の意思疎通が円滑に行える。そのため、外国人の困りごとなどに沿った支援や情報提供ができ、外国人家庭を孤立させないことができる事業である。	△	個別支援を主とする事業であるため、他団体等との協働は図りにくい。	○	南区の子育て支援の特性として外国人家庭への支援を挙げることができる。	◎	テレビ電話通訳により、コミュニケーションを図る時間の短縮を図ることができる。保健指導などで配布できる資料を作成することで、家庭でも内容を確認することができる。	
⑤自立発展性		総合評価						
○	個別支援を主とする事業であるため、発展性は低い。外国人が子育てしやすいまちづくりに寄与することができる。また、リーフレットや問診票などの翻訳については他区でも活用できるよう共有している。	○	保護者へ生活や子育ての情報を正しく伝えられること以外に、保護者が専門職に母国語で相談できる機会があることで安心感が得られ、育児不安の軽減が期待できる事業である。					
今後の方向性(課題、改善提案等)								
拡充 継続 見直し 廃止	今後、外国人家庭は増加することが予測されるため、テレビ通訳の継続と子育てや健康に関する資料をベトナム語・中国語・英語などに翻訳することでさらに安心して子育てなどができる環境整備をすすめていく。							